

幼児の繪について (承前)

—母を目標として—

中 村 楠 雄

▽幼児の繪の見方は

どうあるべきでせう△

まづ注意すべき事は、子供の得意になつてゐる繪に對して、決して無定見な批評は加へてはならぬと云ふ事だと思ひます。殊に缺點を指摘しての批評は一切してはならぬと思ひます。それに大人はこれをよくしたがるのです。其の爲めに子供の繪を型にはめてしまつたり、折角の良き芽生へを無慘にもつみとつてしまつたりする様な事が起るのです。考へて見ると恐ろしい事ではありませんか。

子供の中には、景色の寫生をさせると、いつも

必らずお空もかき、お空をかくときまつて青のク
レオンをとつて左から右に横線をひつぱりながら
ぬつて行くのがあります。其の時のお空は晴れて
ぬやうが、曇つてぬやうが、どんな面白い形の雲
が出てぬやうが、一切おかまひなしであります。

これで本當の繪がかかけませうか。申上げるまで
もありません。よくお分りの事と思はれますが、
これではうその繪であります。こんな正しくない
繪をかくに至つた原因はどこにありますか。察
する所きつと誰れか大人が、其の子供がいつか書
いた繪を見た時、お空の忘れられてゐるのを見つ
けて、幼い子供はお空をかく事をよく忘れるもの

ではあるが、「お空を聞いてないじゃない？ お空はこうかくものよ。」などと言つて、かいて見せたものに違ひありません。そしてお空のかき方を型に入れてしまつたのです。

そこで私の考へを申しますなら、お空をかくまづに子供の心がまだ進んで居らぬなら、無理に命令的にこうかけとかき方を示してまづ、かゝさなくともよいと思ひます。それよりも自らお空をも正しく見てかける様に、子供の眼と心を教育しなければなりません。

其の方法には色々とありませうが、或る場合には様々なお空をもかゝれてゐる幾枚かの範畫をだまつて與へてやる事なども、一つの方法だと考へます。若しこの事によつて子供が啓發されて、何かお空について話かけて來る様なら、この時こそ本當に指導すべき時でせう。けれども子供との應答は、どこまでも注意深く、決して強いる事があ

つたり、餘りに現在の子供の力の範圍を越し過ぎない様に氣をつけねばならぬと思ひます。

また範畫を與へた時には何とも言はなかつたが、其の後の作品にお空の表現があつたといふ様な場合にも、亦指導の好チャンスを得たものと、言はねばなりません。さうした場合前の作品を額にでも入れて、机の上にもたてゝあるとか、或は壁にでもかけてあるとかするなら、直ちに今度の作品をそれと並べてやるのです。そして「××さん、前のはこの所は眞白なのに、今度はどうして此處をこんなになつたのです？」

「ハハア、なる程、お空ですか。大變いゝ所へお氣がついたのね。そしてこのお團子のかたまりの様なものが、ぼつ／＼と見えますが、これ何ですか。」

「あゝ雲！ それはよく見てゐますね。これいつかかきになつたの？ どこからごらんになつた？」

「今度のは前よりもずつとよく見えますよ。前に気がつかなかったお空まで見てゐるんですからね。」

などと語しかけるのです。

こうした心づかひをしてやる事によつて、朝日夕日、さては四季折々の空の色、雲のたゞずまいまで、しつかり見つけてかく子供にしてやれると思ふのです。

これが創作創造へと導く事にもなるのだと思ふのです。子供自ら發見し自ら教育して行く事になるのだと考へるのです。

つまり寫生などの指導にあつては、眞に物をよく見ることを訓練すればいゝのです。さうするならば子供は自分一人で、其の眼を廣げ且つ深めて行きます。この大切な工夫を忘れて、私達はともすれば「この色をぬりなさい。」「こんなに書きなさい。」と言ひたくなるのです。

これで寫生畫指導のあらゆる場合を申し上げたのではありません。しかし要するにどんな場合でも子供の缺陷とする所、伸展させねばならぬと思はれる點を發見した時には、いつも端的に指摘してヒヤリとさせる事などは絶対に禁物であります。それよりもいづれの場合にも上述の精神を忘れず、どうして其の足りない點に自ら氣づかしめるか、どうして一段上の世界に到達せしめ様かと考へてやるべきであらうと思ひます。

次に思想畫の指導について述べて見様と思ひます。思想畫と言ひますのは、實際に物を見つゝかく方の畫ではないのです。例へば家庭生活の有様を思ひ出してかくとか、運動會のあとで其の時の様子をかくとかの類です。

これが指導の根本精神も上述の通りです。誤つた干渉の手を加へない事が大切です。しかし餘り放任に過ぎるとちつとも其の思想が伸びない事て

す。従つて畫に進歩がありません。

例へば男の子なれば、電車と汽車と飛行機と自動車とよりかゝらず、女の子なれば家と、野原と草花、お人形位よりかきません。そして其の電車も汽車もいつも殆ど同じものをかくのです。

そこで私はよくいふのです。思想の開展といふ事をはかつてやらねばならぬと。

それにはどうするかといふと、時々子供自身の日々の生活をふりかへらせて見るとか、或は幼稚園の行事とか、世間の行事とかを話題にしては繪の方へ導くのです。こうする事によつて子供は只に電車と飛行機、野原と草花に限らず、自己の日々の經驗は随分畫の材料になるものだといふ事を自然了得する様になるものです。

次に同じ運動會の畫をかいても、觀察の誠に事細かに行き届いて、其の時の様子の丁寧によく寫せたものと、これはまたあつさりとして、旗を一

本たてて其附近で人が二三人走つてゐるらしい所だけかいてゐる様なのとある事です。

この後の場合の様な思想の貧弱な、注意力の足らぬ子供も亦捨てゝはおけないと思ひます。それかと言つてこれも促成栽培的な事を考へると必ず失敗しませう。やはり良き範畫を與へたり、良き問答が交はされたりして少しづつ、伸び進む様に考へてやるべきだと思ひます。

また色彩觀念のめちや／＼な子供のゐる事です。黄色いお蜜柑を緑にぬつたり、赤いリンゴを茶色にぬつたりする事です。これは場合によつては色盲であるかないかをまづ試してやらねばならぬでせう。それからやはり上述の精神と方法によつて、物をよく見、正しく眺める様に導いてやらねばなりません。

尙其の他にいつ何をかいても、色も線も弱々しい子供、又其の反對に觀察は荒つぽくて色も線も

徒らに強く烈しい子供等々……色々ありませう。

とに角どんな場合にも、どの子供の繪を見ても缺點は決して言はぬことです。そして少しでもとるべき所があれば、それを見出してほめてやるのです。缺點とする所不足の點は、彼等の眼と心をつちかふ事によつて漸次に自ら補足させて行く様にしさへすればよいのです。これで子供の繪を見てやり、子供の繪を指導して行く上の大切な心得について、其のあらましは申述べたつもりです。

さて以上は家庭に於て、子供の繪を見てやる上の注意といふ様な意味に、ぼんやりながら標準を置いて申述べて来たのですが、これが幼稚園などでしたら、大變都合のよい場合が多いと思はれます。何しろ多數の子供でありますから、いつも様々な特徴のもつた繪を得られやすいからです。そこでそれらの繪や又は他に用意したものなどによつて、家庭に於けるが如く個人的に啓發指導を加

へて行く事も勿論必要であります。時々其の組全體の繪をならべて、展覽會ごつことでも申しますか、さうした遊びを催して、子供といつしよに其の並べられ、繪を見ながら話し合ふのです。これは誠に面白いよい啓發指導の機會です。小學校などで申します鑑賞指導とても申すものに當りませうか。其の時には先生はよく其處此處の繪について其の特徴を捕へてほめるのです。

「このお蜜柑よく見てかいておますね。本當のお蜜柑と間違ふ位いゝ色が出ておますこと。」

「この運動會の繪はとてもくはしいのですね。こゝは園長先生のお席、こゝはお客様、あゝこゝは樂隊屋さん、こゝは大勢の見いらつしやつた方と、何んとおびいさんもあり、おばあさんも、おや洋服を着てステッキをついた方もありますね。おやく／＼これはどこかのお母さんらしいのね。丸鬚にしてゐるのですね。この邊はもう遠くて大勢

でそれでこんなお顔ばかり澤山並んでゐるのです

ね。眞中では今何してゐるのです。あゝ！ 綱引

の眞最中ですよ。赤白に分れてこの大勢が一生懸命になつてゐますこと！ この旗をふつてゐるの

は先生でせう。あゝ！ ピストルを打つおぢさんまでたつてゐますね。この繪は何てこまかにかけてゐるのぞせう。」

「この繪は何としつかりしてゐますね。思ひきつてしつかり色もぬつてますよ。筋なども力強くつて氣持ちがよろしいですね。」

こんな風に話すのです。子供も面白がつて繪を見てください。そして繪をかきたがります。こうしてゐるうちに子供の繪心が進んでくるのだと思ひます。

繰り返し申しますが、氣短かになるな、奏功をいそぐな、どうあるべきかは自らの力で見出さしめよ、といい事は私共大人の子供への大切な心得

だと思はれます。

▽又リエは何のために

やらせるのぞせう△

繪の好きな私の友人から、又其人達のグループから、私達が幼稚園で又リエをやらせてゐるのを見て、いつもあれは感心しない、繪の方から見てよくないとの批評をうけたのであります。

これは一應は傾聴すべき言であると思つて考へます。けれども幼稚園は學校などと全然同じ意味に繪に就ての教育をする所でないといふ事を、忘れ過ぎた言葉ではなからうかと思ふのであります。

又繪の指導といふ立場から考へても、これが取扱ひ様で決して害がある事なく、むしろ幼兒の繪の指導に利便をさへ感じるのであります。

つまりこれ等の批評も餘りに繪といふ事のみから考へた事と、今一つ幼兒の教育といふものの理解の不十分か、或は見解の相違といふ事などから

來てゐるのでないかと思ひます。

そこでヌリエには如何なる價値を認めるかを申述べたいのでありますが、それには日本幼稚園敎會發行のヌリエの序の要點を左記に掲載致します

1、ぬりえは碌々事物の輪廓を描く事が出来ず、輪廓だけの繪で事物をよく想像出来ない幼兒が、事物の形態色彩等を表現せんとする強き衝動を満足せしめるに重要缺くべからざるものであります。

2、ぬりえを行はしむるに當つては、先づ事物の觀念を明白に再現させる事が必要であります。特に實物を觀察せしめる必要もあります。また彩色するためにいろいろの指示や説明をする必要もあります。しかしなるべく幼兒をして自由に色彩を選定させ表現を拘束しない方がよいのであります。そしてぬり上つた後は全體として鑑賞させる工夫が必要であります。

(右に見るが如くヌリエは觀察遊びなどと密接な關係を持つてゐるので、一人繪の方からばかり批評は出来ません。又色に對する觀念の把握といふ事、忍耐力、注意力の養成といふ事なども、附加して考へたい價値的方面であります。) そして私共は幼兒の繪に就て、決してヌリエばかりさせてゐるのでない、といふ事をもそれらの批判者に述べたいのであります。小學校的に申しますなら、自由畫も寫生畫もさせてゐるのであります。若しヌリエばかりやつて他を少しも振り返らぬのであつたら、ヌリエに反對する人々の所說の一である、即ち變な型に入れるとか、創作意識を磨滅させるとかいふ心配もありませう。

けれども事實はさうではありません。大ていの幼稚園ではよく教育的に考慮して決して片寄つた事は致さないのであります。

だから實際私の經驗から考へても、ヌリエをや

つてゐるために弊害があつたなどの事實は認められませぬ。しかし幼児の繪は如何なる考へで指導すべきか、ユリエ帖はどんな注意のもとに使用させるべきかを知らない人達がユリエをやらせたりまたユリエばかりが幼児の繪だなどと思つたりする人が、ユリエを取扱つた時には大變に害のあることは私にも考へられます。

私共の幼稚園の子供が、其の土地の繪の展覽會で面白い創作的なものを描くといふので、毎年相當多數の入選者を出し、また特賞にあたる子供も連年出してゐた事實もあり、また先年御大典記念の繪の展覽會のあつた時にも、今京都にあつて繪をやつて居れる某氏は、私共の園兒の繪の前にたれて（最後の部屋に陳列）

「あゝ！ 今日此處に來て始めて展覽會に來た甲斐があつた。」

などと、言はれた事なども今思ひ出すのであります。

す。

この後の言葉は私共へ向つての直接のお言葉ですから、多分のお上手否過分のおほめに預つたのに違ひありませんが、とに角之らによつてもユリエの害をうけて變な型にばかりはまつてゐたなどの、事實のなかつたといふ事だけは確かな様です。實際ユリエは子供の非常に喜ぶものであり、決して繪の方から考へても大なる害あるものでなく幼児の遊びの一つとして、まづ捨てる事の出來ぬものだと考へられます。

兎に角ユリエについては、時に非難も受けまします、またそこに一應の理由も認められもしますので、幼稚園では何故にやらせるのか、どこに目的があるのかと云ふ事、やり方さへあやまらねば決して害のあるものでなく、むしろ幼兒には歓迎され、幼稚園などでは捨てがたい良い遊びの一つである事等を申し述べて見たまでであります。（了）